

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について【概要】

令和7年7月31日
福岡県教育庁教育振興部義務教育課

■ 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 2 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年を原則として全児童生徒を対象

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

■ 3 調査実施学校・児童生徒数

小学校	学校数(校)	児童数(人)		
		国語	算数	理科
福岡県(公立)	692	42,143	42,159	42,217
全国(公立)	18,269	936,137	936,399	936,576

中学校	学校数(校)	生徒数(人)		
		国語	数学	理科
福岡県(公立)	339	40,284	40,323	40,221
全国(公立)	9,272	870,560	871,097	864,634

※ 学校数及び児童生徒数は、国・私立を除く。

※ 小学校調査の学校数は、義務教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部）及び分校を含む。

※ 中学校調査の学校数は、義務教育学校（後期課程）、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校（中学部）及び分校を含む。

※ 福岡県（公立）には、指定都市を含む。

■ 4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査：小学校調査は、国語、算数及び理科、中学校調査は、国語、数学及び理科。国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式で実施。中学校理科は、一人一台端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（「MEXCBT」という。）によるオンライン方式（以下「CBT」（= Computer Based Testing）という。）で実施。

イ 質問調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査は、一人一台端末等を用いた CBT で実施。

(2) 学校質問調査

指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等に関する質問調査を、オンライン方式で実施。

■ 5 調査実施日等

(1) 児童生徒に対する調査

	小学校調査	中学校調査
国語及び算数・数学	令和7年4月17日木曜日	
理科	令和7年4月17日木曜日	令和7年4月14日月曜日から同年4月17日木曜日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日
質問調査	令和7年4月18日金曜日から同年4月30日水曜日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日	令和7年4月14日月曜日から同年4月17日木曜日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日 (理科と質問調査は同一日)

(2) 学校質問調査

令和7年4月1日火曜日から同年4月17日木曜日までの間

■ 6 本県が育成を目指す「資質・能力」

これまで、本県においては、全国学力・学習状況調査結果として、文部科学省が示す資質・能力の三つの柱のうち、主に教科に関する調査をもとに「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の状況を分析、公表してきた。

文部科学省は、資質・能力のもう一つの柱である「学びに向かう力、人間性等」は、「児童生徒が『どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか』に関わるものであり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。」としている。そこで、本県においては、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」とともに、非認知的要素を多く含む「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をバランスよく育成することを目指す。

福岡県が育成を目指す資質・能力

○知識及び技能
○思考力、判断力、表現力等

○学びに向かう力、人間性等

学びを調整する力、粘り強く挑む力
自己有用感・自己効力感、
協働する力 等 **非認知的能力**

■ 7 調査の結果

(1) 教科に関する調査の結果

① 平均正答数、標準化得点、平均正答率、平均 IRT スコア

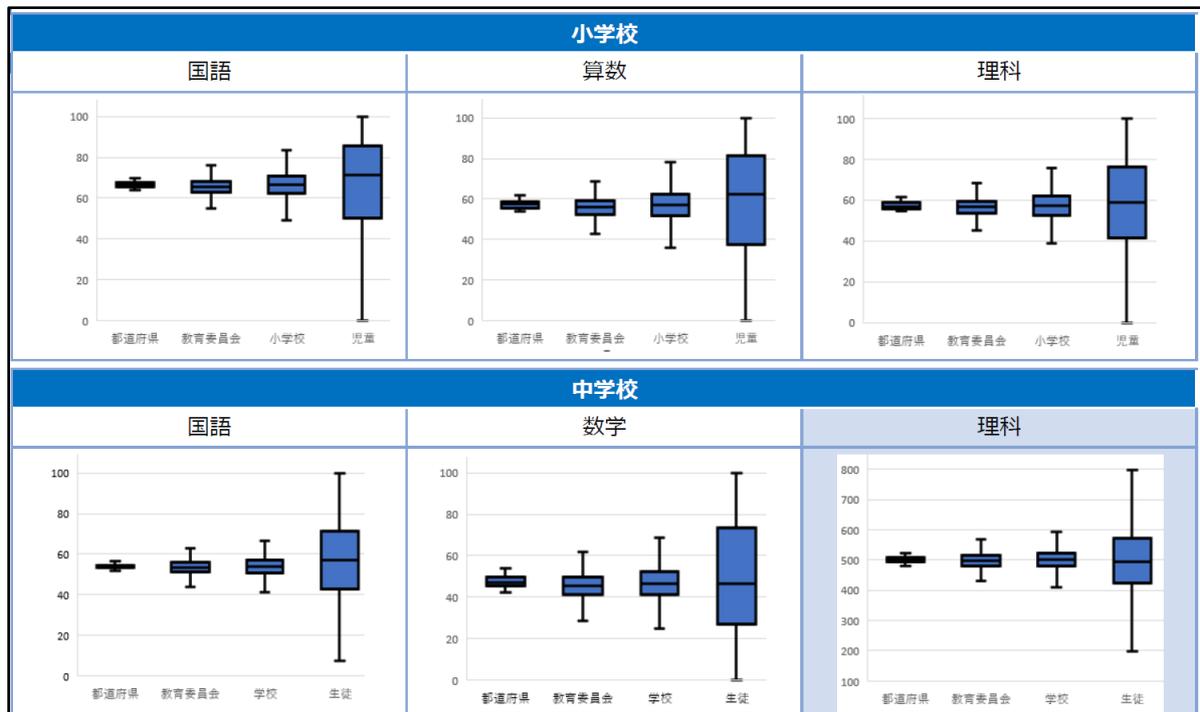
		小学校			中学校			
		平均正答数/出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数/出題数	標準化得点	平均正答率	平均IRTスコア
国語	福岡県(公立)	9.5 / 14	101.1	68	7.6 / 14	100.0	54	
	全国(公立)	9.4	(100.0)	66.8	7.6	(100.0)	54.3	
算数 数学	福岡県(公立)	9.2 / 16	98.9	57	7.1 / 15	98.6	47	
	全国(公立)	9.3	(100.0)	58.0	7.2	(100.0)	48.3	
理科	福岡県(公立)	9.7 / 17	100.0	57				497
	全国(公立)	9.7	(100.0)	57.1				503

- ・ 標準化得点とは、全国の平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと。
- ・ 県の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数で国から提供。
- ・ 中学校理科は、公開問題(全日程に共通する問題と実施日により異なる問題)と非公開問題を組み合わせて構成されているため、平均正答数・標準化得点・平均正答率は算出せず、500を基準とするIRTスコアで表示。
- ・ IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

- 小学校国語は、全国平均をやや上回り、中学校国語は、全国平均と同程度だった。
- 小学校算数及び中学校数学は、全国平均をやや下回った。
- 小学校理科は、全国平均と同程度、中学校理科は、全国平均をやや下回った。

<様々な集計単位でみる正答率・スコアのばらつき：文部科学省資料>

縦軸：正答率（中学校理科は IRT スコア）

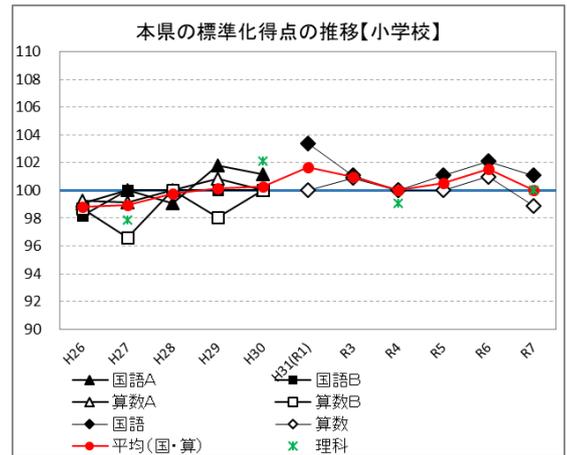


都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。
(文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント」より)

② 本県の標準化得点の推移

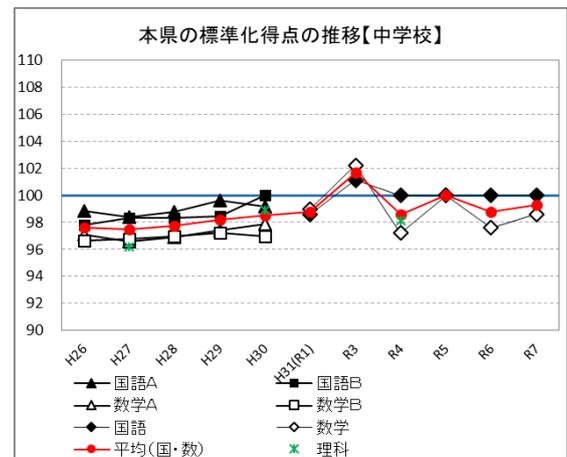
【小学校】

年度	国語A	国語B	算数A	算数B	平均(国・算)	理科
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	98.8	
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	99.0	97.9
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	99.8	
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	100.2	
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	100.3	102.1
	国語		算数		平均(国・算)	
H31(R1)	103.4		100.0		101.7	
R2						
R3	101.1		100.9		101.0	
R4	100.0		100.0		100.0	99.1
R5	101.1		100.0		100.6	
R6	102.1		101.0		101.6	
R7	101.1		98.9		100.0	100.0



【中学校】

年度	国語A	国語B	数学A	数学B	平均(国・数)	理科
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	97.6	
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	97.5	96.2
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	97.8	
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	98.2	
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.5	98.9
	国語		数学		平均(国・数)	
H31(R1)	98.6		99.0		98.8	
R2						
R3	101.1		102.2		101.7	
R4	100.0		97.2		98.6	98.1
R5	100.0		100.0		100.0	
R6	100.0		97.6		98.8	
R7	100.0		98.6		99.3	※497



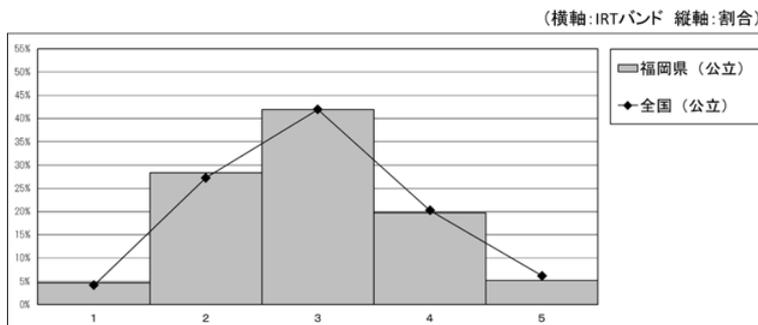
- ・平成31年度(令和元年度)以降、「知識を問う問題(A問題)」と「活用を問う問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更。
- ・中学校理科は、令和7年度以降、*IRTスコアで示されることとなったため、標準化得点の推移グラフには表示していない。

各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

(文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント」より)

③ 中学校理科の状況

<IRTバンド分布グラフ>



<IRTバンド集計値>

IRTバンド	生徒数	割合	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
5	2,093	5.2	6.2
4	7,924	19.7	20.3
3	16,897	42.0	42.0
2	11,422	28.4	27.3
1	1,885	4.7	4.2

※IRTバンドとは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3、最も高いバンドが5となる。

- 今後、教科に関する調査については、解答の状況(地域差、解答類型、無解答率)等の分析を進めるとともに、質問調査については、教科に関する結果との関連や、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組の状況等について分析を進めるなど、教育施策の成果と課題の検証改善や学校における学習指導の改善等に取り組む。

④ 地区別の標準化得点の状況

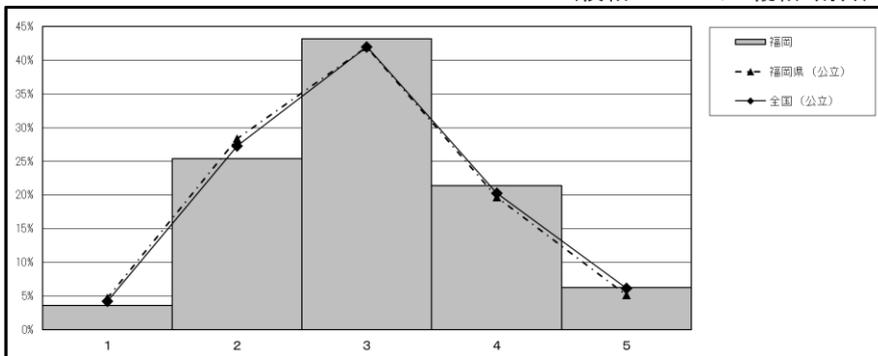
ア 6地区及び指定都市の標準化得点（中学校理科の状況はイを参照）

	小学校			中学校	
	国語	算数	理科	国語	数学
福岡県（指定都市を含む。）	101.1	98.9	100.0	100.0	98.6
福岡県（指定都市を除く。）	102.1	98.9	100.0	98.7	97.2
福岡地区	104.3	102.2	102.1	103.9	105.6
北九州地区	100.0	95.7	95.9	97.4	91.7
北筑後地区	102.1	101.1	101.0	96.1	91.7
南筑後地区	101.1	98.9	100.0	94.7	90.3
筑豊地区	96.8	91.4	92.8	90.8	77.8
京築地区	100.0	95.7	97.9	97.4	93.1
指定都市	98.9	97.8	100.0	100.0	100.0
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ 6地区及び指定都市の中学校理科の状況（IRTバンド分布）

<福岡>

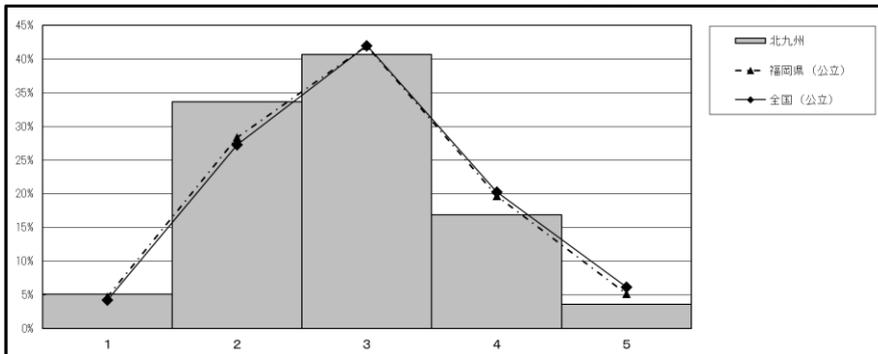
（横軸:IRTバンド 縦軸:割合）



IRTバンド	割合(%)		
	福岡	福岡県(公立)	全国(公立)
5	6.3	5.2	6.2
4	21.4	19.7	20.3
3	43.2	42.0	42.0
2	25.4	28.4	27.3
1	3.6	4.7	4.2

<北九州>

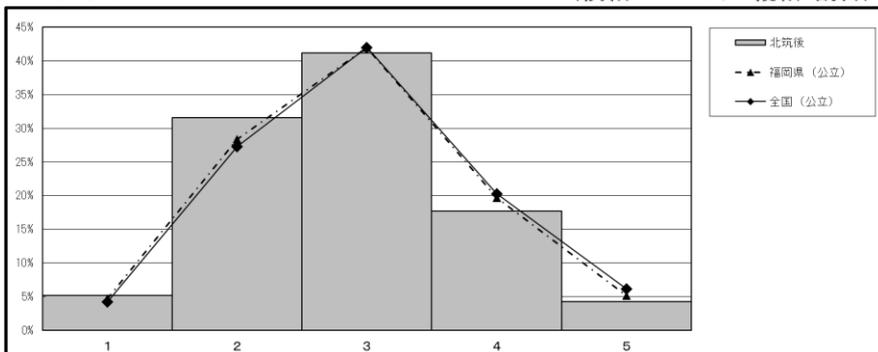
（横軸:IRTバンド 縦軸:割合）



IRTバンド	割合(%)		
	北九州	福岡県(公立)	全国(公立)
5	3.6	5.2	6.2
4	16.9	19.7	20.3
3	40.7	42.0	42.0
2	33.7	28.4	27.3
1	5.1	4.7	4.2

<北筑後>

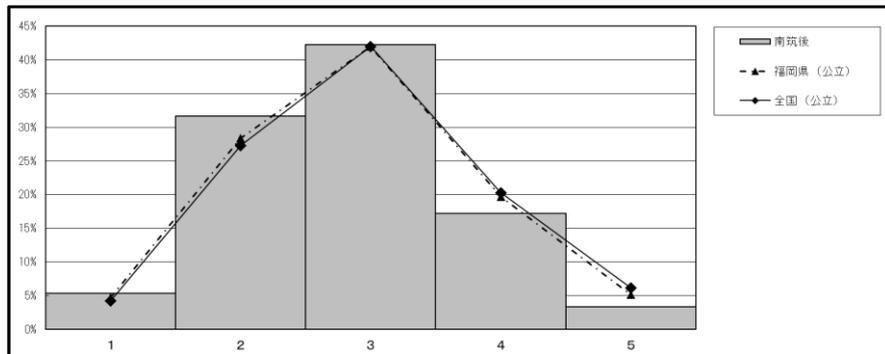
（横軸:IRTバンド 縦軸:割合）



IRTバンド	割合(%)		
	北筑後	福岡県(公立)	全国(公立)
5	4.3	5.2	6.2
4	17.7	19.7	20.3
3	41.2	42.0	42.0
2	31.6	28.4	27.3
1	5.2	4.7	4.2

<南筑後>

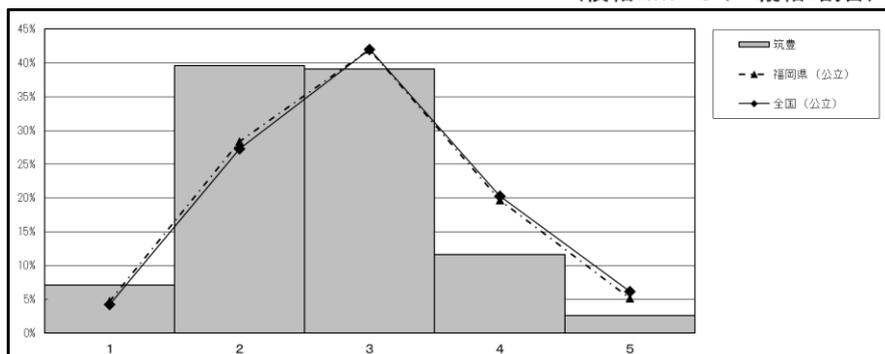
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合 (%)		
	南筑後	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	3.4	5.2	6.2
4	17.2	19.7	20.3
3	42.3	42.0	42.0
2	31.7	28.4	27.3
1	5.4	4.7	4.2

<筑豊>

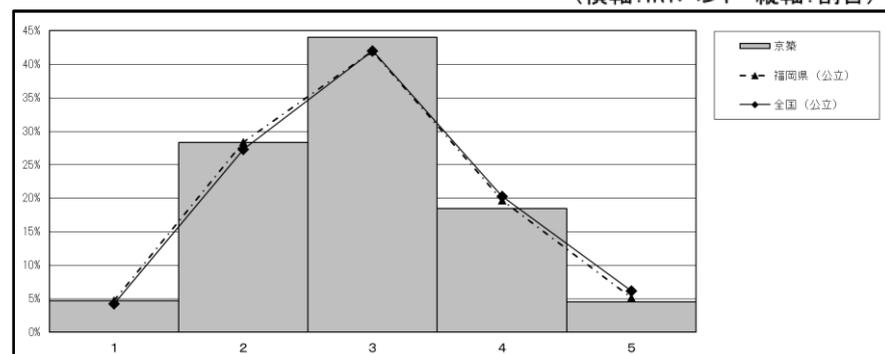
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合 (%)		
	筑豊	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	2.6	5.2	6.2
4	11.6	19.7	20.3
3	39.1	42.0	42.0
2	39.6	28.4	27.3
1	7.1	4.7	4.2

<京築>

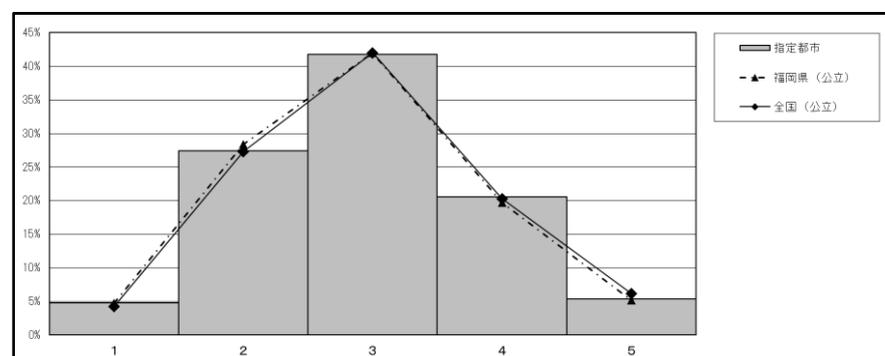
(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合 (%)		
	京築	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	4.5	5.2	6.2
4	18.5	19.7	20.3
3	44.0	42.0	42.0
2	28.3	28.4	27.3
1	4.7	4.7	4.2

<指定都市>

(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



IRT バンド	割合 (%)		
	指定都市	福岡県 (公立)	全国 (公立)
5	5.4	5.2	6.2
4	20.6	19.7	20.3
3	41.8	42.0	42.0
2	27.4	28.4	27.3
1	4.8	4.7	4.2

- 7つの地区（福岡、北九州、北筑後、南筑後、筑豊、京築、指定都市）のうち、標準化得点が全国平均以上の地区は、小学校が国語5地区、算数2地区、理科4地区、中学校が国語2地区、数学2地区であった。
- 中学校理科において、IRTバンド3以上の生徒の割合が全国以上の地区は1地区であった。

(2) 質問調査の結果（学びに向かう力、人間性等）

上段に福岡県の割合、下段に全国の割合を示している。

1、2の枠を太線で囲んでいる項目は、肯定的回答が8割を超えているまたは全国平均と比べて県平均が上回っている項目である。太点線で囲んでいる項目は、肯定的回答が全国平均と比べて県平均が5%以上下回っている項目である。

<児童生徒質問調査（①、②、③、④の項目名は、県独自に分類し、付したものである。）>

① 学びを調整する力

番号	質問事項	※選択肢				
		1	2	3	4	5
★小16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	30.5	49.4	17.1	3.0	
		32.6	49.1	15.3	2.8	
★中16		26.6	48.9	20.9	3.1	
		27.4	50.1	19.2	2.8	
◆小31	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.8	37.0	27.2	10.7	2.1
		26.8	41.8	22.7	7.0	1.6
◆中31		14.6	37.5	30.4	14.7	2.3
		18.9	44.1	25.5	9.0	2.0
小32	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	26.6	51.5	18.7	3.0	
		29.0	51.3	17.1	2.6	
中32		22.1	53.4	20.7	3.0	
		23.4	54.3	19.0	2.7	
小33	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	26.3	49.1	20.9	3.6	
		28.7	49.1	18.9	3.2	
中33		19.4	50.2	24.8	4.4	
		20.2	50.4	24.0	4.2	
☆小35	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	39.1	44.5	12.4	3.1	0.9
		40.9	44.0	11.5	2.7	0.8
☆中35		34.6	49.5	10.9	2.6	1.0
		35.1	49.6	10.5	2.5	1.1
小36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	29.6	48.4	18.2	3.5	
		31.2	48.2	17.1	3.3	
中36		22.6	50.1	21.7	3.8	
		23.0	50.4	21.3	3.7	

② 粘り強く挑む力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小7	将来の夢や目標を持っていますか	61.6	21.6	10.3	6.5
		60.7	22.4	10.3	6.6
中7		36.4	31.3	21.9	10.0
		35.5	32.0	21.9	10.2

③ 自己有用感・自己効力感

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小5	自分には、よいところがあると思いますか	46.0	40.4	9.5	4.0
		47.3	39.6	9.1	3.9
中5		39.7	46.9	10.3	2.9
		40.7	45.5	10.5	3.2
小6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	53.8	37.9	6.3	2.0
		55.3	36.9	5.8	1.9
中6		44.9	46.9	6.4	1.5
		46.6	45.6	6.0	1.5

④ 協働する力

番号	質問事項	※選択肢			
		1	2	3	4
小8	人が困っているときは、進んで助けていますか	48.8	45.0	5.3	0.8
		49.2	44.5	5.4	0.9
中8		37.6	53.1	7.9	0.9
		37.9	53.0	7.8	0.9
小11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	74.4	22.2	2.5	0.9
		73.7	22.7	2.6	1.0
中11		73.0	23.9	2.3	0.7
		71.3	25.3	2.4	0.8
小13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	31.9	45.6	17.5	4.9
		32.6	45.5	17.1	4.7
中13		31.0	47.6	17.7	3.3
		31.4	47.8	17.1	3.3
小27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	34.3	47.5	13.9	4.2
		33.8	47.5	14.2	4.4
中27		23.7	53.1	17.7	5.1
		22.4	52.9	18.8	5.6

※「選択肢」について

選択肢の各番号は、次のような選択肢となっている。

1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、4：当てはまらない

★（小16、中16）は、

1：できている、2：どちらかといえば、できている、3：どちらかといえば、できていない、4：できていない

◆（小31、中31）は、

1：発表していた、2：どちらかといえば、発表していた、3：どちらかといえば、発表していなかった、

4：発表していなかった、5：考えを発表する機会はなかった

☆（小35、中35）は、

1：当てはまる、2：どちらかといえば、当てはまる、3：どちらかといえば、当てはまらない、

4：当てはまらない、5：学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない

<学校質問調査>

番号	質問事項	※選択肢					
		1	2	3	4	5	6
◇小15	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	43.2	55.3	1.4	0.0		
		44.3	52.8	2.8	0.0		
◇中15		36.3	60.5	3.2	0.0		
		40.1	55.9	3.8	0.0		
■小58	前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	51.9	28.3	15.8	3.3	0.7	0.0
		61.0	23.8	11.8	2.9	0.3	0.0
■中58		51.3	21.2	19.8	5.3	1.8	0.6
		63.7	19.1	11.7	4.4	0.8	0.2

※「選択肢」について

◇（小15、中15）は、

1：よくしている、2：どちらかといえば、している、3：あまりしていない、4：全くしていない

■（小58、中58）は、

1：ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）、2：ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）、

3：週3回以上、4：週1回以上、5：月1回以上、6：月1回未満

児童生徒質問調査において、

- 「学びを調整する力」に関わる項目の「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が8割を超えていた。「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、全国平均を小学校及び中学校で5%以上回った。
- 「粘り強く挑む力」に関わる項目の「将来の夢や目標を持っていますか」については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が8割を超えており、小学校、中学校ともに全国平均を上回った。
- 「自己有用感・自己効力感」に関わる項目の「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が8割を超えていた。
- 「協働する力」に関わる項目の「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」については、肯定的回答をした児童生徒の割合が8割を超えていた。全国平均を上回っている項目も多くみられた。

学校質問調査において、

- 「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」については、肯定的回答をした学校が、小学校、中学校ともに9割を超え、全国平均を上回った。
- 「前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」については、小学校において、「ほぼ毎日」と回答をした学校の割合が8割を超えていた。

(3) 本調査問題における福岡県の特徴

<記号の意味>

◇ 正答率が高い問題（2問） ○ 全国と比べて本県の成果がうかがえる問題

◆ 正答率が低い問題（2問） ● 全国と比べて本県の課題がうかがえる問題

なお、◇と○、◆と●が重複している場合は、◇または◆示す問題の「差」の値に下線を付している。
また、○および●は、全国との差、誤答の状況、無解答率等をもとに義務教育課が選定している。

小学校

<国語>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2 四ア 短答式	◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	82.9	81.6	+1.3
2 二 選択式	◇ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	82.2	81.8	+0.4
3 三 (2) 記述式	○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	58.9	56.3	+2.6
3 三 (1) 選択式	◆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	39.8	40.8	<u>-1.0</u>
3 二 (2) 選択式	◆ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	52.2	51.3	+0.9

<算数>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3 (4) 短答式	◇ 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	82.5	81.3	<u>+1.2</u>
4 (1) 選択式	◇ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	82.0	82.8	-0.8
3 (2) 記述式	◆ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	22.6	23.0	-0.4
3 (3) 短答式	◆ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	31.2	35.0	<u>-3.8</u>

<理科>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
1 (1) 短答式	◇ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかをみる	79.3	79.5	-0.2
2 (3) 短答式	◇ 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかをみる	78.8	78.0	+0.8
3 (3) 選択式	○ 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかをみる	63.3	62.0	+1.3
2 (1) 選択式	◆ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかをみる	10.3	10.6	-0.3
3 (4) 記述式	◆ レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかをみる	33.0	29.9	+3.1
3 (2) 選択式	● 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる	38.8	45.6	-6.8

中学校

<国語>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3二 短答式	◇ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかをみる	89.7	89.9	-0.2
1二 選択式	◇ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる	82.7	82.5	+0.2
3一 選択式	○ 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかをみる	80.1	80.0	+0.1
3四 記述式	◆ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかをみる	17.1	17.1	0
2四 記述式	◆ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる	24.6	23.2	+1.4
4二 記述式	● 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる	27.5	30.1	-2.6

<数学>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
7 (1) 短答式	◇ 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	77.2	77.4	-0.2
8 (1) 選択式	◇ 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	70.4	71.9	-1.5
5 短答式	○ 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	45.6	42.5	+3.1
6 (2) 記述式	◆ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	25.2	25.7	-0.5
4 短答式	◆ 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	31.2	34.7	-3.5
9 (3) 記述式	● ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	31.5	33.2	-1.7

<理科>

問題番号	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2 (2) 選択式	◇ ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	93.3	94.6	-1.3
4 (2) 選択式	◇ 火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	92.5	92.8	-0.3
9 (2) 選択式	○ 気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	61.0	58.1	+2.9
2 (1) 選択式	◆ 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	12.1	14.0	-1.9
8 (2) 記述式	◆ 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	17.6	18.1	-0.5
6 (1) 選択式	● スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	62.5	65.9	-3.4

■ 8 今後の予定

詳細な分析を基に報告書を作成し、市町村教育委員会及び全小・中学校へ配布し、併せて、県教育委員会のホームページに掲載する。